

(様式1)			
自己評価票			
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	少しずつでも地域密着できるような打開策を、検討する。いも煮会参加。北押原地区自治会参加
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	再び申し送りを復活させ管理者と、職員で理念を共有し、実現に向けて取り組む。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		今後ご家族や地域の方にも我々のホームの理念が浸透するようにホームページや市の広報などにも、掲載する
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	運営推進委員会を通じて、地域への啓発や広報に取り組んでゆく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域の行事（運動会や、お祭りなど）への積極的な参加

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	地域貢献は、出来ていない。	我々のホームとしてどういう貢献ができるか今後考えてゆきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	サービス評価自体を職員に伝えているが、意義については伝えきれていない感がある。	いずれ全職員が周知し評価へかかわれる方法を考え実践していく。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営委員会において評価や取り組みについて話し合っている。	特に地域との関わりが薄いので、地域との強化を話し合っている。それにより、行事に地域の老人会と関係を持つことが出来た。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	相談事があれば市と連絡を取り話し合い相談して進めている。	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	現在は、成年後見制度を、利用されている方は、入所されていない。	今後、成年後見制度の説明会や、研修会に参加し理解を深める。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	実際にホーム内において虐待は行われていないと思われる。が、防止策に関しては、周知徹底されていない。	防止策に関しては、職員間で周知徹底されるように会議などで話し合う機会を持ちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項に基づいて理解しやすいように説明を行っている。その都度不安や疑問点もあればその場で必ず返答している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各利用者が常に意見を出しやすいように、日常の中で意向や仕草を観察し、何かあれば職員がさりげなく聞き出すようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族に対しての暮らしの情報提供はその都度行っているが、特に形式的なものや手紙や便り等には行っていない。</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<p>まずは広報誌的なものの作成を考える。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時等に職員の方から声掛けを行い、家族の要望や意見を引き出す働きかけを行っている。また、世間話をすることもある。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>2ヶ月に1回の会議の際に職員間でいろいろな話し合いを行い、そこで職員間の意見を出してもらい運営に反映している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務の都合や時間帯等は処遇に反映できるように調整しているが、最近では職員の人員の不足によりなかなか調整が困難になるときも見られる。</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<p>人手が不足しているときは現状しのぎで止むを得ないと思われるが、その都度最善の方策の出来る勤務形態を常に見直してゆく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事においては法人代表が一括して決定しているため運営においての裁量ができない現状がある。	○	法人本部に、ご利用者さんと職員とのなじみの関係の大切さを理解して頂き異動は、最小限にしてもらうように働きかける
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの講師を招いたりしているが、内部での勉強会の実施が不十分である。	○	内部の勉強会の機会を設けることを検討する。(4月より毎月行う)
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業関係者と交流実施の話し合いは出ているのであるが、事業者同士なかなか機会の確保が設けられず実施までには至っていない。	○	実施に向けてその都度同業者間で話し合いの機会を再び設けるところから始める。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	2ヶ月に1回の会議の際に職員間でいろいろな話し合いをするが、職員の悩み相談等は行っていない。	○	日頃業務における悩みを話し合える場や外部を含めてそういったことを語り合える機会を考えてゆく。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所面談時や利用面接時に本人の話をできる限り傾聴し困っていること・不安な事・求めている事を、理解しようとしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時や、行事の時などに家族とコミュニケーションを測り信頼関係を築く様にしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたものが一人で判断せずスタッフ全員でその方にとって最善の方策は何か、を考えるようにし、他機関との連携もはかるようにする。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に2段階の面接を行っている。特に2段階目の面接では、ホームを数日間利用して頂きご本人にも当ホームがどういった所か分かって頂く様に努力している。その上で入所して頂いている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理法や味付け等の指導を教えていただくこともある。また、昔の歌、言葉、ならわし、地理等を教えていただいたりして、お互いに共存の関係を築いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事のときにご利用者の輪の中に入ったり面会時にも良い関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活歴を調査したりご家族やご本人の関係を理解するようにしている。そして家族ごとにより良い関係作りに努めている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前1人で住んでいたご自宅に行き日中過ごしたり、帰宅願望が出た時に行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている			
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了者の中で特に強い関係を持っている利用者や家族は特にいないが、終了後も関係を大切にしていきたいと考えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
<p>33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>外出をおこなってたりして応じているが、困難時の検討は不十分である。</p>		<p>ご利用者様から思いや暮らし方の希望や訴えが少ないため、なかなか1人1人に合わせた生活を送って頂く事は難しい。現在は馴染みの家具や、生活用品・アルバムなどを持参して頂く。</p>
<p>34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>数名の利用者に対しては生活歴や生活特性などの情報収集が出来たが、全利用者となるとまだ不十分である。</p>	○	<p>全利用者のは生活特性の情報収集を行う。</p>
<p>35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>職員が常に利用者の近くにいるように心がけ状態を把握している。記録も必ず入居者の近くで行うようにしている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
<p>36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者個別に対する介護目標は計画作成担当者を中心にその都度職員間で話し合い進めているが、介護計画に反映するまでには至っていない。</p>	○	<p>具体的な介護計画を話し合い、介護計画に反映するように進めていく。</p>
<p>37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画の見直しの設定期間がパターン化してしまい、柔軟な随時の見直しがなかなか行えていない。</p>	○	<p>利用者の個々の状態変化や意向等に柔軟に対応できるように対応する。ご利用者や、ご家族のニーズにあったポジティブな目標を立てる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の特徴や変化等は記録できているが、計画に反映された記録は不十分である。	○	介護計画の反映も十分に記録できるようにする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面談などし、その時々々の本人や家族の状況に対応出来る様にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察にホームの情報を伝え協力を依頼している。また、地域の小学校と避難場所の提携を結んでいる。ただ、理解、協力の働きかけは行っていない。		今後運営推進委員を交えて、地域資源との協働に努めたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	なかなか、他のケアマネジャーや、サービス事業者と連携は、とれていない。		他のケアマネジャーやサービス事業者と連携をとるには、どうしたら良いか、スタッフ間で話し合いたい。また、同一法人の通所サービスの活用を推進したい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	完全とまではいかないが、支援センターとの情報交換や連携を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>休診日・夜間などのサポートシステムについて、かかりつけ医と話し合っていく。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>事業と協力できる専門医の確保を検討する。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>看護師の人員配置を法人本部と現在検討中である。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>職員間で話し合いを多く持つことにより、事業所内で出来ること・出来ないことを、明確に出来るようにする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先の方に、書面や口頭で情報を提供することにより、住み替えによるダメージを防ぐようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本的においては利用者を尊重した対応をしているが、職員の精神的余裕の欠如からまれに感情的になったり、その場限りの対応になってしまうこともある。	○	全てにおいて利用者に尊重したり受容できるように職員が精神状態を保てるよう個人個人が努力する。また、チーム内で助け合えるように検討する。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	以前はある程度利用者のペースに合わせて生活を送っていただいたが、現在は職員数の減少により利用者のペースを乱すことも出てきている現状がある。	○	現在の職員配置数でより利用者のペースで生活できるような工夫を考えていき実践する。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	以前はある程度利用者のペースに合わせて生活を送っていただいたが、現在は職員数の減少により利用者のペースを乱すことも出てきている現状がある。	○	現在の職員配置数でより利用者のペースで生活できるような工夫を考えていき実践する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自力にて出来る利用者は行っているが、その他の利用者は職員がほとんど行っている状況がある。		介助を必要とされているご利用者様に関しては、身だしなみを整える際御本人様の、意向を聞くことの出来るようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は、一緒に食事の雰囲気を作りながら食事の演出をしている。又、片付けなども、職員と共に行っている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者ひとりひとりの嗜好調査をして毎月見直している。中には晩酌される利用者もいる。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	スタッフ間で情報を交換し合い1人1人の排泄パターンを、理解するようにしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施している。(日曜日は、希望者のみ)が、夜間浴は、行えていない。	○	夜間は職員配置人数の都合上入浴は行うことが出来ない。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない方へのケアとして声かけ添い寝をしたりして対応している。また、ホール内に和室やソファを置いて休息できる場を設けている。また、前庭やベランダにもいすやテーブルをおいて休息できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者によってはカラオケや晩酌等の楽しみごとを行っている。また、食器洗い、掃除、洗濯干し、洗濯たたみ等の部分的には役割の支援をしている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には管理させてもらっている。ただ、希望がある場合は小額ではあるが利用者が管理しているケースもある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	完全にそういったシステムがとれているわけでは、無いが出来る限り1人1人の、希望に添える外出を心掛けるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	完全にそういったシステムがとれているわけでは、無いが出来る限り1人1人の、希望に添える外出を心掛けるようにしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所に公衆電話を設置し利用者に活用していただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が面会に来た際、お茶を出して職員も時によっては一緒に団らんに加わったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が認識し身体拘束は行わないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解してお り、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は時間を決めて鍵をかけずに開放している。 ただ、まれに職員数が少ないときや利用者の状況 によっては鍵をかけてしまう場合もないとは言え ない。	○	日中だけでも鍵のかけないように検討していく。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しなが ら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握 し、安全に配慮している			
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を 防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品の保管は鍵のある所へ保管する 等、十分に行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態 に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人一人の起こり得る事故等を予測し、常 にその利用者に対して事故防止には努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行っている	緊急時のマニュアルを作成していて、各職員に配 布説明を行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ るよう働きかけている	定期的に避難訓練等の防災訓練を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族への説明が不足している。		職員への伝達のみではなく、家族へも伝達するようにシステムを整える。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の異常が見られたときはバイタルチェックを行い通院により対応するようにしている。また、記録にも残している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には体調の様子等をチェックし観察し医療機関や家族と相談しているが、副作用については認識不足がある。	○	職員1人1人に、処方箋を、配布し1人1人がご利用者様の処方の内容について、理解を深めるようにする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便介助者の排泄は注意できるが、排泄自立者の排便の確認が出来ていない。対策以前に確認が出来ていない状況である。	○	排便自立者の把握の対応を、医療機関と話し合っていく、。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	基本的に口腔ケアは行っており、義歯等の衛生管理も出来ている。自力での口腔ケアが困難な利用者には介助により対応している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックは毎日行っている。また、必要のある方は水分量チェックも行い、必要な場合は水分補給を促進している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策にそった掃除マニュアルは作成しているが、感染症別のマニュアルや勉強会は行っていない。	○	感染症に対しての勉強会を設ける。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日食材を購入している。食中毒防止のため、ハイターや、スーパードリームF1で、調理器具や、食器を、消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表札を木の手作りのものを使用し、威圧感を感じさせないようにしている。また、玄関付近の前庭にはパンジーの花壇を備えており、訪問者からもよい評価を頂いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールはリサイクルのソファ等を使用したり、利用者が広告で作成したゴミ箱をテーブルに置き、共用空間を作っている。ただ、トイレや浴室等は利用者による異食や破損の恐れがあるため小物は設置していない。	○	トイレや浴室等は事故を考え現状維持がやむを得ない。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、ソファ、ベランダとその場に合わせて自由に過ごせる空間作りがあり、利用者が活用されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時には必ず使い慣れた家具や生活用品を用意していただくよう説明し、基本的には本人馴染みの家具やインテリア等を持ってきていただいている。ただ、利用者個々によっては部屋が殺風景になっている部屋もある。</p>	○	<p>居室環境作りが不十分な居室の方には、共に空間作りをしていけるようにはからう。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>空調や換気を随時行っている。また、冬季はホールに加湿器を設置して乾燥防止をしている。</p>		
<p>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホールや浴室、トイレ等には手すりが備え付けてあり、数脚のいすの高さが低く調整がされていたり、イスの高さが、合わない方に関しては、足台を、使用している。であるが、キッチン車椅子の利用者でも使える高さになっていない。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室の表札、トイレパネル、浴室のマーク等を設けることにより、場所の間違い防止策をはかっている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダがあり天候のよいときは日光浴を楽しめるようにしている。また、物干し等やプランターも設置して手伝える環境にある。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

年1回バーベキュー会と、いも煮会を、全御利用様と、全御家族様と共に行っている。